



応用生態工学会 第28回新潟大会 公開シンポジウム

生態系ネットワーク形成を 基軸とした地域づくりを目指して

令和7年 2025 **9.13** Sat. **土**

14:00-17:00 | <どなたでも参加できます!>

<会場> 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 国際会議室

〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6-1

<主催> 応用生態工学会 第28回新潟大会 実行委員会

<後援> 国土交通省北陸地方整備局 / 農林水産省北陸農政局
環境省自然環境局 / 新潟県 / 新潟市
国立大学法人新潟大学 / 新潟日报社

<CPD> 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会認定
CPD プログラム

申込方法

会場参加とオンライン参加はいずれも、QRコードよりお申し込みください。

なお、会場参加の申込が事前に定員に達した場合は、会場での当日の参加申込をお断りさせて頂く場合があります。



Program プログラム (14:00~17:00)

<14:00> 開会挨拶 <第28回新潟大会 実行委員会委員長 関島恒夫>
新潟市長挨拶 <中原八一>

第一部

14:10
14:55

生態系ネットワーク形成とは ーその意義と国としての取り組みー

・河川を基軸とした生態系ネットワークの形成

<前 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 (現 国土交通省 大臣官房審議官) 小島優>

・生物生息場の連結性とネットワーク化がなぜ必要か？

<北海道大学 名誉教授 中村太士>

第二部

15:05
16:00

生態系ネットワーク形成を基軸とした地域づくり

・関東におけるコウノトリに選ばれる地域づくり

～コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラムの取組～

<小山市長 浅野正富>

・トキも人も育つまちへ～トキの放鳥・野生復帰に向けた取組～

<出雲市長 飯塚俊之>

・ラムサール条約湿地都市認証と

【国際湿地都市 NIIGATA】の未来 <新潟市副市長 野島晶子>

第三部

16:10
16:55

パネルディスカッション

<コーディネータ 関島恒夫>

<登壇者> 野島新潟市副市長、浅野小山市長、飯塚出雲市長、
小島国土交通省大臣官房審議官、中村北海道大学名誉教授、
関公益財団法人日本生態系協会専務理事、
藤田新潟国際情報大学教授

<16:55> 閉会挨拶 <国土交通省北陸地方整備局河川部長 木村勲>

一般社団法人応用生態工学会について

応用生態工学会は、1997年に生態学と土木工学の関係者が共同で発足した学会です。2024年には一般社団法人化し、「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を共通の目標に、生態学と土木工学の基礎知識及び実際の問題についての研究成果をもとに、両分野の関係者が共同して、それらの境界領域に新しい理論・知識・技術体系である「応用生態工学」を発展・展開させることを目的としています。

応用生態工学会では、全国大会を毎年持ち回りで開催しています。今回の応用生態工学会第28回新潟大会は、新潟大学農学部の関島恒夫教授を実行委員長として新潟市で初めて開催します。全国大会には、全国各地から多くの学識者、技術者、行政担当者等が集い、「応用生態工学」に関わる活発な議論、情報交換が行われています。合わせて開催する公開シンポジウムでは、市民の方々にも公開し身近な「応用生態工学」に関わる話題をご提供することで、地域の問題や課題などを知っていただくとともに、「応用生態工学」が広く普及するように活動を行っています。



発表者・登壇者略歴

小島 優 (前 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 現 国土交通省 大臣官房審議官)

東北大学工学部土木工学科卒業。1992年建設省入省、2017年7月水管理・国土保全局災害対策室長、2019年4月同局海岸室長、2021年7月近畿地方整備局河川部長、2024年7月水管理・国土保全局河川環境課長などを経て、2025年7月より現職。河川・防災分野の行政に長く携わる。荒川下流、庄内川、岡山河川の3つの河川事務所で河川環境の改善などにも取り組む。



中村 太士 (北海道大学 名誉教授)

1983年北海道大学大学院農学研究科林学専攻修士課程修了。農学博士。1984年北海道大学農学部助手として採用。1990年同講師、1992年同助教授、2000年同教授。2024年3月定年退職し、現在は北海道大学名誉教授。1990年から92年までアメリカのオレゴン州立大学で生態系管理学を学ぶ。森林と川のつながりなど、生態系間の相互作用を土地利用も含めて流域の視点から研究している。



浅野 正富 (小山市長)

早稲田大学法学部卒業。弁護士。2006年に宇都宮大学農学部非常勤講師、2009年にNPO法人ラムサール・ネットワーク日本事務局長を務め、2012年の渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録等に尽力。2020年に小山市長に就任し、現在2期目。2022年4月から小山市長としてコウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラムの代表理事を務める。



飯塚 俊之 (出雲市長)

明治大学経営学部卒業。2003年ケーブルテレビの雲州わがごとテレビを創業。2009年出雲市議会議員に初当選以降、3期12年を務める。2021年から出雲市長に就任し、現在2期目。2022年に「出雲新話2030」を策定し、「出雲力」と経済・暮らしの好循環で市政を「前へ」推し進める。



野島 晶子 (新潟市副市長)

昭和59年、新潟市役所入庁。平成26年の新潟市湯環環境研究所発足時には事務局長として、湯の魅力や価値の再発見・再構築を推進。その後、市民生活部長を経て、平成31年には保健衛生部長となり、新型コロナウイルス対策に尽力した。令和4年、新潟市副市長に就任。



関 健志 (公益財団法人日本生態系協会 専務理事)

(財)日本鳥類保護連盟を経て、1992年より(公財)日本生態系協会にて事務局長を務め、2019年からは専務理事。2004年からは(公社)日本ナショナル・トラスト協会の事務局長も併任。国土交通省や環境省の専門委員、新潟大学・鹿児島大学の講師としても活動。企業・行政・地域団体と連携し、自然環境の保全に取り組んでいる。



藤田 美幸 (新潟国際情報大学 経営情報学部 経営学科 教授)

新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程修了、博士(経済学)。新潟国際情報大学情報文化学部准教授を得て、2024年より現職。専門はマーケティング戦略論、地域活性学。地域資源を活用した地域マーケティング、地域マネジメントを研究対象とする。特に消費者行動に着目し、地域住民や訪問者の行動が地域に与える影響、その動機や相互作用の解明に注力している。近年はツーリズムマーケティングにも取り組んでいる。

